

文化

疎外された人々を韓国児童文学はどう描いているか
～貧困・格差・障害～

いちよう塾への申込み

八王子市学園都市大学いちよう塾
042-646-5621

申込み期間

7月15日(木)～
8月15日(日)

講師	大竹 聖美(こども文化学科 教授)
開講日時	9月10日(金) 10:20～11:50 ※この日程は予定です。6月1日以降、本学HPでご確認ください。
会場	八王子市学園都市センター(セミナー室)
内容	貧困・格差・障害など、社会的に疎外された人々が韓国の児童文学、絵本、映画では多く描かれています。そこにはどのような現実が描かれ、どのようなメッセージが込められているのでしょうか。
対象	18才以上(高校生除く)
定員	17名 応募多数の場合は抽選とさせていただきます。
受講料	一般:1,000円 学生:500円 (お申し込みは、八王子市学園都市大学いちよう塾へ)
持ち物	筆記用具

講師プロフィール

白百合女子大学大学院文学部児童文学専攻修士課程修了、日韓文化交流基金訪韓研究員、大韓民国政府招聘留学生としてソウル延世大学校大学院教育学部博士課程にて博士(教育学)学位取得。アジア児童文学日本センター理事、日本ペンクラブ子どもの本委員、日本文藝家協会会員。著書に『植民地朝鮮と児童文化』(社会評論社)他。優れた韓国の絵本の翻訳紹介、講演等多数。



講師からみなさまへ

疎外された人々を描いた韓国児童文学作品は多いですが、日本に翻訳紹介されることは稀です。未邦訳作品を多く紹介しながら、こうした作品が次々と刊行される社会的背景を現代の日本社会と照らし合わせながら考えたいと思います。映画にも触れません。